

「バックエンド部会」第59回全体会議 議事録

日時：2023年9月7日（木）12：05～12：55

会場：日本原子力学会「2023年秋の大会」E会場（オークマ工学機械工学館1F オークマホール）

議事内容

1. 坂本部会長挨拶

2. 2023年度活動中間報告

2.1 企画報告

2.1.1 企画A

①バックエンド部会 企画セッション

2023年秋の大会

バックエンド部会主催の企画セッションとして「廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方」をこの全体会議のすぐ後に開催することを報告した。プログラムは以下の通りである（敬称略）。

2023年9月7日(木) 13:00 ～ 14:30 E会場

座長：小畑 政道

バックエンド部会 企画セッション 「廃棄物管理のバリデーション・性能担保の考え方」

- | | |
|----------------------------------|-------------|
| [1] 浅地中処分の性能の検証および妥当性確認の事例 | 小澤 孝（日本原燃） |
| [2] 中深度処分の規制基準の考え方 | 青木 広臣（規制庁） |
| [3] 長期間を対象とした高レベル廃棄物の管理 | 梅木 博之（NUMO） |
| [4] 原子炉の運転についての安全確保の考え方 | 糸井 達哉（東大） |
| [5] 意見交換・議論「長期の安全性確保に必要なバリデーション」 | 講演者全員 |

2024年春の年会

2024年3月26日（火）～28日（木）に近畿大学東大阪キャンパスで開催される2024年春の年会での企画セッションについて、企画のアイデア・希望を運営委員まで連絡するよう依頼した。

②ICRP国際シンポジウムサテライトイベント

第7回国際放射線防護委員会国際シンポジウム（ICRP2023）の開催に合わせてバックエンド部会主催によるサテライトイベントを開催する。詳細は以下のとおり。

2023年11月11日(土) 09:30 ～ 12:30 グランドニッコー東京29階 銀河

「放射性廃棄物処分に関する放射線防護～長期の不確実性への対処を考える」

協賛：原子力発電環境整備機構，一般財団法人 電力中央研究所

後援：原子力規制委員会

構成：講演とパネルディスカッション

ICRP 勧告の検討動向（仮題）

我が国における放射性廃棄物処分に関する規制（仮題）

地層処分における閉鎖後長期の放射線安全の確保（仮題）

浅地中処分における閉鎖後長期の放射線安全の確保（仮題）

パネルディスカッション

③プログラム編成

2023年秋の大会のプログラム編成について、以下の編成委員のご尽力を得たことを報告した。

コード	専門分野	WGリーダー	WGメンバー
505-1	放射性廃棄物 処理	桜木 智史 (原環センター)	有馬 立身(九大) 川崎 大介(福井大) 佐藤 淳也(JAEA)
505-2	放射性廃棄物 処分と環境	尾上 博則(NUMO)	近藤 陽太(日立GE) 桜木 智史(原環センター) 中林 亮(電中研)
505-3	原子力施設の 廃止措置技術	中村 保之(JAEA)	中村 保之(JAEA) 早野 明(JAEA) 尾上 博則(NUMO)

④専門委員会

原子力学会がNUMOより委託を受けている「地層処分のセーフティケースに係る様々なステークホルダーを対象とした理解促進に関する方法の検討」に関する特別専門委員会の活動報告を行った。委員会の設置期間と検討内容は以下の通りである。

- ・設置期間：2021年9月～2024年3月
- ・地層処分に特有の概念や用語に対する専門家間の認識のずれ、セーフティケースの分かりにくさの原因を整理
- ・上記を解消するための重要な用語の解説、コミュニケーション上の配慮事項等を取りまとめ、実践を通じてコミュニケーションのための知識ベースを構築

2.1.2 企画B

第39回バックエンド夏期セミナーの開催実績を報告した。

日時：2023年8月24日（木）、25日（金）

場所：ハイブリッド開催（会場：TKP札幌駅カンファレンスセンター、Zoom）

参加者：86名（対面49名、オンライン37名）

テーマ：バックエンド分野の将来ビジョン ～実現に向けた人材育成～

<1日目>

講演：7件

北海道大学工学研究院

小崎 完 氏

文部科学省原子力課放射性廃棄物企画室

原 真太郎 氏

JAEAバックエンド統括本部	瀧谷 啓晃 氏
原子力環境整備促進・資金管理センター	徳島 秀幸 氏
日本原燃株式会社埋設事業部埋設計画部	樋口 智也 氏
株式会社 I H I 資源・エネルギー・環境事業領域 原子力SBU (兼) 東双みらいテクノロジー株式会社	福井 寿樹 氏
清水建設株式会社土木技術本部	土 宏之 氏ポスターセッション：6件

ポスター、ショートプレゼンテーション、質疑応答を実施。後日、優秀ポスター賞を決定し、春の年会で表彰を行う。

<2日目>

- ・グループディスカッション
- ・パネルディスカッション

座長 : 小峯秀雄氏 (早稲田大学)

パネリスト : 瀧谷 啓晃 氏(JAEA)

徳島 秀幸 氏(原子力環境整備促進・資金管理センター)

樋口 智也 氏(日本原燃株式会社)

福井 寿樹 氏(株式会社 I H I 資源・エネルギー・環境事業領域 原子力SBU (兼) 東双みらいテクノロジー株式会社)

土 宏之 氏(清水建設株式会社)

見学会：北海道新幹線シールドトンネル工事現場

(発進立坑、発生土受入地、鋼製連壁、柱状式連壁)

- ・講演再録，セミナー参加記が部会誌次号に掲載される予定
- ・夏期セミナー参加者へのアンケート結果は集計中であることを報告した。

2.1.3 企画C

ポジション・ステートメントWG (PSWG) と日韓原子力学生・若手研究者交流事業運営小委員会について報告した。

・PSWG (Position Statements WG)

- ▶ ポジション・ステートメント (以下、PS) のより一層の認知度向上及び、タイムリーなPS発信を目指して、**PSの枠組みやプロセスの見直し (PS改革)** についてWGにて協議を実施。今年5月末に開催された**前期の理事会の最終会合において関係規則類が確認・承認**。
- ▶ 今後、公開済みPSの見直し作業から着手 (次ページ参照)
- ▶ 公開済みPSの見直し作業については、PSWGでの準備 (見直し手順の具体化、再提案に至る詳細手順の策定等) が整い次第、該当PSについて指定されるものと考えられる。

・日韓原子力学生・若手研究者交流事業運営小委員会

- ▶ 当部会担当の交代を事務局に連絡

- 今原子力学会秋の大会期間中にメール審議にて運営小委員会を開催

2.2 広報報告

部会HP小委員会活動，R5年度週末基礎講座の開催概要について報告した。

①部会HP小委員会の活動について（4/1～8/31）は以下のとおりである。

(1)部会ホームページの管理・運用 ([http:// nuce.aesj.or.jp](http://nuce.aesj.or.jp))

- ・「2022 年度バックエンド週末基礎講座」参加報告の掲載
- ・バックエンド部会誌Vol.30, No.1のHP掲載 ・2022年度部会表彰報告
- ・第39回バックエンド夏期セミナー〔開催案内〕の掲載
- ・ICRPサテライトイベント開催のHP掲載

(2)バックエンド部会情報メールサービス（メーリングリストによる情報連絡）

お知らせとお願い

メール配信開始/停止，アドレス変更は部会員からの申告によって行います。（部会加入と連携していません）

配信エラーが続くと自動的に配信停止となります。

メール配信ご希望の方，アドレスの変更があった方は広報担当までお知らせください。

e-mail： info@nuce.aesj.or.jp （部会ホームページをご覧ください）

(3)ホームページ小委員会メンバーの紹介

齋藤 龍郎	原子力機構	広報委員(2022～)	HP更新, メール配信等の窓口, 運営小委員会との連絡調整
小林 大志	京都大学	広報委員(2023～)	同上
佐々木 隆之	京都大学		運営全体の俯瞰, 企画・提案
秋山 大輔	東北大学		部会情報メール メーリングリスト管理, メール配信
佐原 聡	原環センター		HPサーバー運用・管理(主担当)
平野 史生	原子力機構		HPサーバー運用・管理

②R5年度週末基礎講座

週末基礎講座の開催目的と趣旨は以下のとおりである。

- ・放射性廃棄物の処理処分などの原子力に関するバックエンド分野の基礎的な知識を身につけていただくことを目的として開催いたします。また，参加者相互の交流の機会を提供するものです。
- ・当分野に興味をお持ちの学生の皆さまや，新たに業務や研究に携わる方々だけでなく，すでにこの分野でご活躍の方々に，改めて関連する知識を確認されたい方など，広くご参加いただけます。
- ・本年度はアンケートで好評を得たオンライン開催を予定しています。

■日程： 11月17日(金) 9:00頃～17:00頃（予定）

■場所： Zoom会議室によるオンライン開催（予定）

■参加費：学会員 1,000円、非会員 2,000円、学生 無料

週末基礎講座の詳細につきましては、開催1ヶ月前を目途に部会ホームページおよび部会メール情報サービスにてご案内予定です。

2.3 出版報告

部会誌「原子力バックエンド研究」の発行状況と出版小委員会体制について報告した。

① 部会誌「原子力バックエンド研究」について

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.30No.1（内容は以下に示す）をウェブサイトで公開中である。部会誌への投稿をお願いした。

巻頭言	佐々木隆之	バックエンド部会の不易流行
研究論文	中田弘太郎	波長スキャンキャビティリングダウン分光法を用いた水素酸素同位体比分析への適用を目的とした微量サンプルからの塩分・微粒子除去法の検討
特集：2022年度バックエンド週末基礎講座		
会議参加記	花房拓豊	「2022年度バックエンド週末基礎講座」参加報告
講演再録	坂本義昭	核燃料サイクルとバックエンドの基礎
	大部祐一	バックエンド週末基礎講座 原子力施設の廃止措置における現状と課題
	藤原健壮	バックエンド週末基礎講座 地層処分研究の概要について
会告		2022年度バックエンド部会表彰 バックエンド部会 関連行事予定

② 出版小委員会体制について

出版小委は以下の15名体制であり、役割分担は以下のとおりである。

役職名	仕事概要	2023年度担当者（敬称略）	所属
編集長	全体の工程管理	川崎 大介	福井大学
副編集長	査読付き論文ハンドリング	鷹尾 康一郎	東京工業大学
委員長	全体の取り回し、運営小委・学会事務局との連絡	中林 亮	電力中央研究所
	査読なし原稿ハンドリング		
副委員長	委員長補佐＋工程管理補助	高橋 友恵	株式会社IHI
出版幹事	原稿（査読あり原稿は査読終了後、査読なし原稿は受領後）の出版（先行公開および部会誌）に向けての事務的仕事の統括	関口 高志	戸田建設株式会社
編集幹事	レイアウトを統括	北城 諒一	日本原燃株式会社
レイアウト担当	レイアウトの実施、原稿のレイアウト確認	西尾 光	原子力発電環境整備機構
		湊 大輔	電力中央研究所
		中島 均	清水建設株式会社
		山田 淳夫	株式会社安藤・間
CD化 J Stage	CD化、J-Stage、会計を統括	山口 正秋	日本原子力研究開発機構
	論文のCD化	山田 文香	原子力環境整備促進・資金管理センター
	査読付き論文等のJ-stageへの登録	邊見 光	日本原子力研究開発機構
会計担当	支出、収入の会計処理	清水 洋平	大日本ダイヤコンサルタント株式会社
HP	HP関連	古川 静枝	電力中央研究所

2.4 庶務報告

海外発表助成制度、研究会支援制度、優秀講演賞について報告した。

①海外発表助成制度

- ・若手研究者の海外発表に関する渡航滞在費を助成
- ・半期あたり原則1名を対象に13.5万円を限度に助成
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・2022年度実績

上期分（2月10日締切） 応募なし

下期分（8月10日締切） 応募なし

- ・2023年度実績

上期分（2月10日締切） 応募なし

下期分（8月10日締切） 応募なし

②研究会支援制度

- ・部会員から研究テーマを公募して研究会を設置
- ・研究会の費用を年間13.5万円までを目安に支給
- ・会期は最長3年とし、適宜成果を取りまとめて発表
- ・詳しくは部会ホームページに掲載の募集要領を参照
- ・2022年度実績：応募なし
- ・2023年度実績：8月末時点で応募なし

③ 優秀講演賞

- ・2023年春の年会において、
優秀講演賞を1名、
学生会員を対象とした学生優秀講演賞を1名選出

	バックエンド 対象講演数※	内,学生会員 講演数
2023年 秋の大会	175	36
2023年 春の年会	84	24
2022年 秋の大会	129	28
2022年 春の年会	76	25

※) 「放射性廃棄物」, 「廃炉（廃止措置）」, 「地層処分」のいずれかのワードを含む一般セッションにおける発表

- ・各座長の採点結果に基づき、本大会における学生優秀講演賞、優秀講演賞を選出
⇒2023年春の年会、秋の大会の優秀講演賞を2024年春の年会全体会議において表彰予定

2.5 会計報告

会計から全体収支、通常予算およびセミナー予算について報告を行った。

① 通常予算

通常予算収支(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取掲載料	0	旅費交通費	0
受取配分金	339,000	通信運搬費	5,238
		消耗品費	0
		一般外注経費	2,420
		諸謝金	0
		雑費	0
		支払助成金(事)	0
<小計>			7,658
		<収支>	331,342
<予算計画額>		589,000	855,000
<執行率>		58%	1%

- ✓ 収入の部：受取掲載料は7月時点未計上。受取配分金（BE部会会費）は予算計画通り
- ✓ 支出の部：部会HP用レンタルサーバー代、J-stage登録費などの定例的な支出
- ✓ 上期(4月～7月)の支出は少なく、通常予算は現時点で約33万円の黒字。

② セミナー予算

セミナー予算収支(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
受取参加費	0	会議費	0
		通信運搬費	0
		消耗品費	0
		一般外注経費	0
		出展費	0
<小計>			0
		<収支>	0
<予算計画額>		1,670,000	1,404,000
<執行率>		0%	0%

- ✓ 収入の部、支出の部ともに夏期セミナーの実績額が未確定のため次回報告予定。夏期セミナーの参加費収入（約50名）の実績等も加味して、年度収支として赤字回避を今後も志向。

③ 全体収支

全体収支(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
通常予算	339,000	通常予算	7,658
セミナー予算	0	セミナー予算	0
<合計>			7,658
		<収支>	331,342
<予算計画額>		2,259,000	2,259,000
<執行率>		15%	0.3%

- ✓ 上期(4月-7月末)は、予算計画通りの執行状況。
- ✓ 支出の多い下期の予算執行に留意して、引き続き適切な予算管理に努める。

2.6 審議事項

なし

以上